

7. チョーライ病院との医療技術協力と卒後教育強化による地方への展開事業

国立大学法人 筑波大学附属病院 国際医療センター

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

ベトナムでは非感染性疾患の罹患率・死亡率の増加に伴い、病院の診断治療の向上の重要性が増している。その状況下、医療技術向上と人材育成の意義は高い。

【活動内容】

筑波大学附属病院ではチョーライ病院およびホーチミン医科薬科大学と協力覚書のもと協力関係にあり、それを拡大して協力する。派遣約 20 名、研修生受入約 15 名、現地でのセミナー開催、ホーチミン医科薬科大学とティエンザン省病院での卒後研修の協力を計画している。

【期待される成果や波及効果等】

チョーライ病院の診療機能の更なる改善、卒後研修制度の改善に対してはホーチミン医科薬科大学を含めて協力し、今後の南部ベトナム地域の診療サービスの改善に貢献する。

＜研修実施結果＞

研修受け入れスケジュール

5月 4名（心臓外科 1、研修管理 2、消化器外科 1）
6月 3名（ICU1、ICU 看護 2）
7月 3名（脳外科 1、消化器外科 1、耳鼻咽喉科 1）
10月 1名（脳外科 1）
11月 2名（消化器外科 1、泌尿器科 1）
12月 2名（内視鏡 1、循環器内科 1）

専門家派遣スケジュール

4月 1名（計画打ち合わせ 1）
8月 5名（ICU1、心臓血管外科 3、泌尿器科 1）

9月 7名（ICU 看護 2、脳外科 1、耳鼻咽喉科 1、卒後研修 3）

10月 5名（セミナー管理 1、消化器外科 3、内視鏡 1）

11月 2名（脳外科 1、循環器内科 1）

12月 1名（消化器外科 1）

消化器疾患セミナー

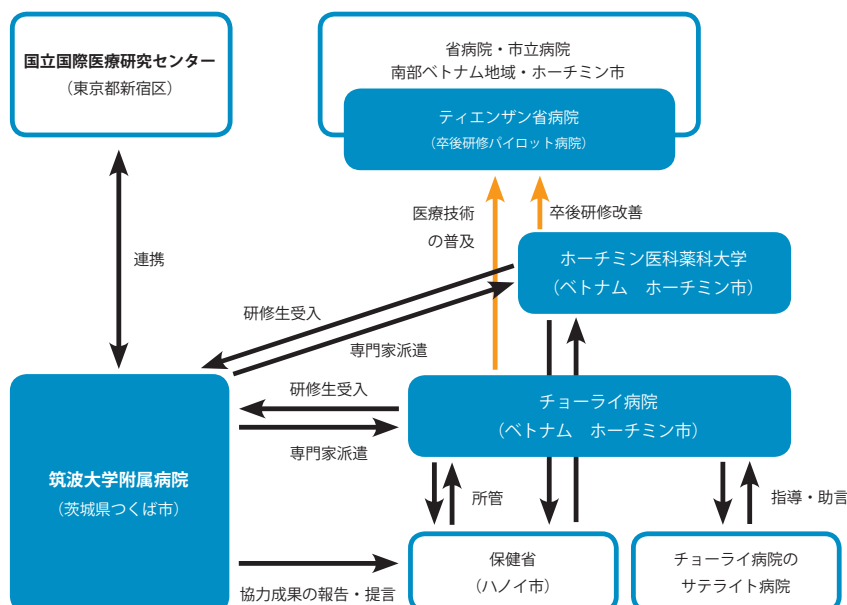
9月 主な対象は南部省病院・ホーチミン市病院

研修指導者講習

11月 ホーチミン医科薬科大学＋ティエンザン省病院

遠隔医療カンファレンス

5月、7月、8月、11月、1月、2月



チョーライ病院との医療技術協力と卒後教育強化による地方への展開

協力期間: 2016年5月11日 - 2016年2月14日

主な協力:

1. 筑波大学附属病院スタッフのチョーライ病院およびホーチミン医科薬科大学への派遣
2. チョーライ病院およびホーチミン医科薬科大学スタッフの筑波大学附属病院での受け入れ
3. 技術協力と人材交流
4. セミナーの実施
5. 指導医講習ワークショップの開催
6. 遠隔医療 (Tele-Conference) の実施



チョーライ病院との医療技術協力と卒後教育強化による地方への展開の事業についてご報告します。対象は、チョーライ病院とホーチミン医科薬科大学です。派遣と研修員の受け入れ、技術協力、セミナーの実施、ワークショップの開催、テレカンファレンス (遠隔医療) の実施等を行いました。

プロジェクトの目標

チョーライ病院およびホーチミン医科薬科大学と協力し、チョーライ病院での協力分野の技術レベルの向上、また看護レベルの向上をめざし、さらに医師の新卒研修カリキュラムの完成とパイロット省病院における卒後ローテーション研修の強化支援を行うことにより地方レベルの医療技術水準の改善を同時に目指す。筑波大学附属病院としてはベトナムの医療の改善および地方での研修の改善を通して国際貢献をする。さらに、筑波大学附属病院スタッフが中進国の巨大な病院での経験を積むことにより視野を広げ、日本での医療の改善にも繋げるとともに国際的な視野を広げることにより筑波大学が目指す国際化に貢献する。



プロジェクトの目標ですが、まずチョーライ病院の技術レベルと看護レベルの向上が第一の目標です。これに加えて、ホーチミン医科薬科大学の卒後研修カリキュラムと卒後ローテーション研修の強化支援です。

期待される成果

1. チョーライ病院における医療技術の向上、特に手術を含めた治療技術、術後管理の改善により、患者サービスが向上する。
2. 上記、診療はICU、ICU看護、心臓血管外科、脳外科、消化器外科、腎泌尿器外科、耳鼻咽喉科、内視鏡診断・治療分野、循環器内科の分野で改善する。
3. これらの分野における協力の成果が南部ベトナム地域の医療従事者に普及することにより同地域の医療水準が改善する。
4. 本大学附属病院との協力を通して各診療分野における情報共有、教育活動を促進する。
5. 本大学附属病院での協力を通して「患者中心医療」の医療文化をチョーライ病院医療従事者が獲得する。
6. 新卒ローテーション研修カリキュラムが作成され、省病院での研修が強化される。
7. 卒後ローテーション研修が実施される。



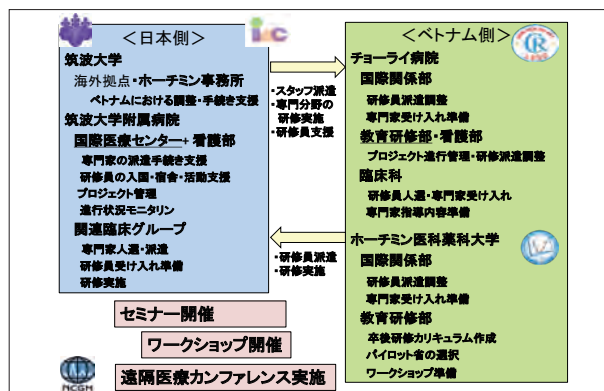
期待される成果ですが、チョーライ病院における各診療科における医療技術が向上すること、成果が南部ベトナム地域の医療従事者に普及すること、そして技術だけでなく、情報共有や教育活動、医療安全なども同時に学ぶことが挙げられます。これに加えて、省病院での新卒ローテーション研修カリキュラムの作成とその実施に向けた支援が挙げられます。

協力分野

1. ICU
2. ICU看護
3. 心臓血管外科
4. 脳神経外科
5. 消化器外科
 - ① 消化管外科
 - ② 肝胆膵外科
 - ③ 肝腫瘍科
6. 循環器内科
7. 消化器内視鏡部
8. 腎泌尿器外科
9. 耳鼻咽喉科
10. 卒後研修



協力分野は、スライドにある1.から9.の臨床分野と10. 卒後教育です。



実施体制です。日本側としては、筑波大学にはホーチミンに拠点事務所がありますので、そちらでコーディネーションをして、筑波大学附属病院は国際医療センターがコーディネーションをして、実際の臨床グループが関わって実施しています。

ベトナム側は、チョーライ病院とホーチミン医科薬科大学の国際関係部、教育研修部が窓口になって双方の教育研修部がコーディネーションをして、各診療科と協力して実施しました。

消化器疾患セミナー

<目的> 近年ベトナムにおいては非感染性疾患が急増しており、消化管悪性腫瘍等肝臓がん、胆嚢、膵臓疾患など肝胆膵疾患等が増加しており、同分野における治療の発展はベトナムにおいても急速であるが、この分野においては日本の医療水準が世界的にも優れており、セミナーを通して同疾患の新しい診療に関して知見を深めベトナムの消化器医療の向上に貢献する。

<日程> 2016年11月14日

<対象> 対象分野のチョーライ病院および南部ベトナム、ホーチミン市の消化器内科、消化器外科医師

<参加人数> 150人

<発表・協議>

1. 筑波大学附属病院スタッフ
2. チョーライ病院スタッフ
3. 南部ベトナム省病院

<発表テーマ>

消化管外科、肝胆膵外科、肝腫瘍、消化器内科、消化器内視鏡、栄養

11月14日に消化器疾患セミナーを開催しました。参加人数は約150人でした。ベトナムでは感染性疾患に代わって非感染性疾患が非常に増えていまして、消化器はそのうちの1つとして重要な分野で、外科、内科だけでなく、内視鏡や栄養などを含めた内容で行いました。チョーライ病院と南部ベトナムを対象に行いました。実はハノイやフエからも参加する計画だったのですが、台風の影響で交通手段の問題があって来られず、残念ながら南部からの参加者だけとなりました。

卒後研修指導者養成ワークショップ

＜目的＞2006年にベトナム保健省から発令された卒後ローテーション研修の実施が諸々の事情により行われておらず、ホーチミン医科薬科大学が責任機関としてこの実施に努めるように保健省から指定され実施を計画しており、その支援を筑波大学附属病院に要請されこれを受けて昨年度に引き続き標記ワークショップを実施し、実際の研修実施に貢献することを目的とした。

＜日程＞：2017年11月21日～11月24日

＜対象＞：

1. ホーチミン医科薬科大学の指導医、ホーチミン市の病院の指導医、チョーライ病院の指導医
2. ドンナイ省病院の指導医および指導看護師

＜参加人数＞ 80人

＜ワークショップ内容＞

1. 日本の医学教育の紹介
2. ニーズ評価
3. 医療技術の安全かつ系統的指導法
4. フィードバック法



卒後研修指導者養成ワークショップです。実はベトナムでは卒後研修をしっかり行わなければならないということで、18カ月のローテーション研修を実施を義務付ける法律ができました。しかし、10年くらい進まなかつたため、保健省がホーチミン医科薬科大学に実施を促進するよう依頼しました。そこでホーチミン医科薬科大学が協力関係にあった筑波大学附属病院にサポートを要請しました。これを受けて2016年度からサポートを実施しております。2017年度はホーチミン医科薬科大学での指導医研修と、ドンナイ省病院での指導医研修を実施しました。

遠隔医療カンファレンス(Tele-conferences)

＜目的＞
チョーライ病院と筑波大学附属病院のスタッフがそれぞれの経験を発表し意見交換することにより、それぞれの診療内容、診療管理の向上に寄与する。

＜カンファレンスの開催頻度＞

協力期間中に4回実施

＜参加者＞：対象分野のスタッフ 各約20名

＜分野＞

1. 消化器外科(乳腺外科)：2017年6月19日
2. 消化器外科(肝腫瘍外科)：2017年6月30日
3. 消化器外科(肝胆膵外科)：2017年10月19日
4. 脳神経外科(脳血管内治療)：2017年11月2日

＜打ち合わせ＞

1. 双方1～2演題と協議
2. 1～2時間



遠隔医療カンファレンスは、当初5回の予定でしたが、最後の1回がベトナム旧正月の日程と近く実施できず、合計4回の実施となりました。各回は、双方で症例を協議しながら、1～2時間のカンファレンスを行いました。九州大学アジア遠隔医療開発センターのサポートの上で行っております。

派遣および研修受入

	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan
1 プロジェクト管理	→									
2 脳神経外科				→	→					
3 耳鼻咽喉科				→						
4 腎泌尿器外科				→						
5 循環器内科					→					
6 消化器外科			→	→	→		→	→	→	→
7 消化器内視鏡										
8 運営管理/卒後医師研修										
9 卒後医師研修				→	→	→	→	→	→	→
10 心臓血管外科										
11 ICU										
12 ICU看護										
消化器疾患セミナー										
卒後研修指導者養成WS										
遠隔医療カンファレンス										

→ 筑波大学附属病院からの派遣

→ チョーライ病院・ホーチミン医科薬科大学からの研修受入

→ 筑波大学附属病院からの派遣・事業内容に一致した研修であるが「留学費」の派遣

こちらが派遣と研修受け入れの実績です。派遣が9月から12月にまとまってしまっています。臨床の先生の都合を優先して行っていると、このようなスケジュールになります。研修の方は、15件の有効な研修ができました。

筑波大学附属病院専門家の活動

＜派遣期間＞原則1週間(→平均5.9日)

＜TOR＞

1. 技術指導
2. 術前・術後管理指導
3. 専門分野の講義
4. 診療科での会議・カンファレンスにおける助言
5. 提言
6. 報告書作成
7. セミナーでの発表
8. ワークショップの実施・ファシリテーター



専門家の活動については、現場での技術指導だけでなく、多くの関係スタッフに知ってもらうためにカンファレンスにおける助言やセミナーでの発表などを行いました。

チョーライ病院・ホーチミン医科薬科大学からの研修員の活動

＜期間＞原則2週間(→平均14.5日)

＜TOR＞

1. 専門分野の技術習得
2. 術前・術後管理の研修
3. チョーライ病院での活動紹介の発表
4. 診療科での教育研修活動を行う
5. 診療科間の協力体制を学ぶ
6. 業種間の協力体制を学ぶ
7. 卒後(新卒医師)研修に関して学ぶ
8. 報告書作成(アクションプランを含む)



研修員の活動は、専門分野の技術研修が主な内容なのですが、そのほかにも筑波大学附属病院の中で教育活動、診療科間の協力体制、業種間の協力体制、医療安全などの医療文化についても一緒に学んでもらいました。

事業の成果(達成度)

＜プロセス・アウトプット指標＞

1. 研修は原則2週間で外科系は手術見学が主で5症例から20症例の見学を行い手技に関する知識の向上があった。
2. 内視鏡は186例の様々な手技の見学、循環器内科は18例の高度なカテーテル手技や心エコーを見学し、脳血管内治療でも10例ほどのIVR見学が行え、手技に関する理解が深まった。
3. ICUでは入院症例から先進的ICU看護に触れ今後のCRHでのマニュアル作成などに生かしたい意向で、ICU看護では人工呼吸器症例の看護、術後リハビリテーション等への理解が深まった。
4. 卒後教育では日本の卒後教育制度、ニーズ評価、教授法の改善、指導医の役割安全な研修、研修のフィードバックなどへの理解が深まり、今後のベトナムでの研修の質の向上に活用が望まれる。
5. 各診療分野においての情報共有、教育活動の促進、患者中心医療、医療安全、院内感染対策などが徹底して行われ質の高い医療の提供が必要という感想が半数以上の研修員から得られた。



アウトプット指標ですが、研修については、外科系では5～20症例見学を実施できました。内視鏡や循環器内科においても十分な見学が実施できました。脳血管内治療でも十分な見学が実施できましたので、今後の手技の改善が期待されます。ICUにおいても、ICUとICU看護の理解が深まったとの報告でした。

卒後教育では、日本の教育制度や研修マネジメントサイクルをきちんと勉強することによってシステマティックな研修ができるところまで達しています。

そのほかにも研修員のレポートに書かれていたのですが、情報共有や教育活動の促進、患者中心医療、医療安全、院内感染対策などが各診療科できちんと行われているなど、日本の医療とベトナムの医療との違いをそれぞれの研修員が感じてくれました。



事業の成果(達成度)



<アウトカム指標>

1. ICUではECMOの実施が74%増加したが、合併症の減少は3.5%と目標値には届かず、VAPもむしろ増加した。
2. ICU看護では伝達講習は全てのスタッフに行ったが、褥瘡、VAPはむしろ増加した。
3. 心臓血管外科では術死、術後出血による再手術はなく達成、MICSや小児の複雑手術も増加した。
4. 脳外科分野では放射線からIVRしようれいのぞうかとのみほうこうがあった。
5. 消化器外科では肝腫瘍科のみから報告があり、術後肺炎現象の未達成、その他肝不全の減少など達成できなかった。
6. 消化器内視鏡では治療手技数、診断数、診断のできる医師数との目標値を上回り達成した。
7. 研修活動では新卒ローテーション研修がこれまでほとんど実施できなかったものが76名に開始され大きな成果があった。
8. その他、データの提出のない診療科も多く今後もフォローしたい。



アウトカム指標ですが、3.4.6.のそれぞれの診療分野では合併症が減ったり、ニーズが増えたり、対応できるスタッフの人数が増えたりする成果がありました。しかし、やはり短期間の成果ですので、1.や2.のように褥瘡やVAP（人工呼吸器関連肺炎）はむしろ増加してしまったという状況もでてきております。

7.は非常に重要な成果です。これまで10数年間法制化されていながら新卒ローテーション研修がほとんど実施されていなかったのですが、76名に開始されましたのでベトナム保健省にとっても大きな成果だと思えます。



今後の課題及び方針



1. チョーライ病院とはMOUを結んでおり当大学附属病院としてもできる範囲での協力を継続する
2. ホーチミン医科大学ともMOUを結んでおり、今回は卒後研修への参加が76名と本格的に実施が開始できたことは大きな成果である。今後ともこの分野での協力を推進したい
3. 遠隔医療カンファレンスは、引き続き拡大して推進したい
4. 筑波大学附属病院からの派遣は若手のスタッフを比較の長い期間派遣も引き続き検討
5. 本事業による日本での研修は多く、国立国際医療研究センターと協力して医療安全や院内感染対策、チーム医療などにより注意して研修するように促し、より効果的な協力を行いたい。
6. 今回は事業終了がベトナムの旧正月に重なったために事業の最終段階での連絡が困難であったこともあり、必要なデータの入手ができなかった。今後はこれらのタイミングも考慮してプロジェクト運営を行いたい。



今後の課題および方針ですが、チョーライ病院とはMOUを結んでいますので、引き続き協力していきたいと考えています。予算が限られていますので、できる範囲でこの事業を続けさせていただきたいと思えます。遠隔医療カンファレンスは、あまり費用がかかりませんので、継続していきたいと考えています。

また、本事業は対象がチョーライ病院ですが、ここはNCGMもJICAプロジェクトを行っていますので、臨床分野は筑波大学、管理分野はNCGMという形で協力しながら進めていければ、より効果的な活動になるのではないかと考えています。



チョーライ病院での専門家の活動



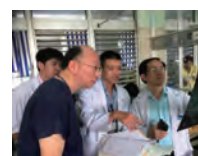
脳外科・耳鼻咽喉科手術指導(阿久津講師・田中講師)



内臓臓器指導(奈良坂講師)



肝臓外科手術指導(高橋講師)



肝臓脾臓外科手術指導(大城講師)

こちらは指導、研修、セミナー、ワークショップの写真です。以上です。ありがとうございました。